

## 平成 28 年度第 1 回置賜地域保健医療協議会 議事概要

・日時：平成 28 年 12 月 26 日（月）18:30～20:00

・場所：置賜保健所 2階 講堂

### 1 開会

### 2 挨拶（置賜総合支庁 加藤保健福祉環境部長）

### 3 会長及び副会長の選任について

委員の互選により、会長に小林委員、副会長に粕川委員が選任された。

### 4 報告

#### （1）地域医療構想の実現に向けて

事務局から資料 1 により報告。

#### （2）医療提供体制の現状と将来目指すべき姿について

事務局から資料 2 により報告。

### 5 協議

#### （1）地域医療構想を実現する上での課題と対応の方向について

##### ①必要病床数の確保に向けた病床機能の分化・連携の進め方

事務局から資料 3 により説明。

##### ○主な意見・質疑等

・資料 3 の病床数は県全体の数字か。二次医療圏ではないのか。

（→事務局から、県全体の数字である旨を説明。）

##### ②具体的病院の改築等に係る病床機能の分化・連携のあり方

事務局から資料 4 により説明。

##### ○主な意見・質疑等

・病床機能報告資料が、平成 27 年 7 月 1 日現在として資料が作られている。平成 28 年度の資料は既にまとまっているのか。

（→事務局から、平成 28 年度分については現在集計中であり、3 月くらいになると数字が出せる旨を説明。）

#### （2）置賜広域病院組合医療機能のあり方と公立置賜南陽病院改築計画（案）について

関係委員から資料 5 により説明。

##### ○主な意見・質疑等

- ・資料5②を見てみると、「サテライトは回復期、地域包括ケア病床として運営」との説明があったことと、「一般病床及び地域包括ケア病床」という記述が矛盾するのではないか。

(→説明した委員から、一般病床の中に回復期病床も入る旨を説明。)

- ・100床程度という病床数の検討について、今後どのように見通しているか。また、資料5②の2ページに南陽病院の病床利用率が81%とあるが、50床の設定について今後どのように病床利用率を上げるのか等、今後の見通しはどうか。

(→説明した委員から、100床は最低数年以内に減らさなければならないだろうと考えていること、現在26床が休床中なので、実質130床近くの減少になること、今後は段階的に病棟の整理をしていきたいことを説明。また、南陽病院の50床については、現在40床程度しか使われていないが、今後、回復期の患者については置賜総合病院とより積極的に連携できるようにしていくこと、来年4月から地方公営企業の全部適用により企業長が全体の管理を強力に押し進めることで分担をよりはっきりさせていくことを説明。)

- ・説明の内容に賛成である。置賜総合病院では、100床よりもっと減らせという時代が必ず来る。20～30年後には人口動態がまるで変わってくることから、100床を目途、50床を目途は理にかなっていると思う。急性期は、大規模病院は要らなくなり、その受け皿の病院が必ず必要になる。今後は、人口動態、出生率とか全体を考えないと、病床いくつというのは難しいと思う。
- ・平成26年に医師会の意見をまとめるためアンケートを実施した結果、南陽病院については、「在宅医療を推進する上でもぜひ必要だ」というのが医師会全員の意見だった。様々な意見が出たが、「病院と診療所の連携は不可欠で、今後とも更に連携を強化して行ってほしい」とまとめられるものだった。

(事務局から)

- ・この協議会の下に病床機能調整ワーキングを設置する。今回は置賜広域病院組合の話が主だったが、米沢の急性期病院でも来年1月に検討会議を開催するという話があるので、それぞれどの程度話が進んでいるのかを、できるだけ来年早々にワーキングを共有して確認したい。今回、貴重な話を頂戴したが、そういう話をもう一段進める場を設けて、3月に開催する第2回の協議会で皆様にご報告したい。

### (3) 在宅医療の推進に係る取組みについて

事務局から資料6により説明。

#### ○主な意見・質疑等

- ・資料6の米沢地区の部分で、米沢市薬剤師会も何か取り組んでいるが抜けているのでは。

(→事務局から、補助事業を活用して実施されている事業を中心に作成している旨を説明したところ、今後は補助の有無に関わらず全体が見える資料を作成してほしいとのこと。)

- ・米沢市薬剤師会でも、地域包括ケアの勉強会を行っており、連携等を深めている。米沢市の地域ケア会議の異業種として薬剤師会も入っており、地域ケア会議はこの1月から始まる予定。在宅における薬剤管理についても、調剤薬局の薬剤師が在宅に入り、使用量を数えた上で主治医に伝え、残った分を処方箋に足していただくような取組みも始めている。

#### (4) 「病床機能調整ワーキング」、「在宅医療専門部会」の設置について

事務局から資料7、資料8により説明。

##### ○主な意見・質疑等

- ・在宅医療の件で、米沢市立病院でも訪問看護ステーションが10月から開始しているので、そうした資料を出して頂ければ全体像がつかめるのではないかと。
- ・長井市西置賜郡医師会で県の補助事業（地域在宅医療連携推進支援事業）を受けて在宅医療の推進に向けて在宅拠点を医師会内に設置し、4月からスタートする。今は小国病院とか白鷹病院が訪問看護を頑張っているが、これから5年、10年先どうなるか分からないということで、この拠点は長井だけでなく西置賜全体を見据えた訪問看護ステーションに向けて、あるいは実施主体としての事業団の設置に向けての第一歩と考えている。
- ・病院の退院支援に関しても、病院の中だけでなく地域で研修を受けて、医療と介護の連携を進めるということで、看護師会の中でも勉強会を進めたり、地域の方を招いて講習会をしたりして取り組んでいる。支部としても県看護協会の動きに合わせて、同じような取組みをしているところを参考にして、病院と施設の看護師と一緒に勉強会を進めようとしている。
- ・高畠地区の取組みだが、介護の事例の検討会を、行政が率先して指導して行っている。「おきカンファ」という新しい取組みがあり、医師はテレビ会議で参加しワンポイントのアドバイスをするとか、将来に繋がる動きではないかと期待している。川西、南陽等の他の市町村も、いい意味で真似して欲しい。これから活性化されていけばよろしいかと思う。
- ・病床機能調整ワーキンググループでは、資料2の2013年必要病床数をたたき台にするのか。

(→事務局から、資料2の一番下の右の必要病床数、2025年の必要病床数を1つの目標にしながら調整させていただく旨を回答。)

## 6 その他

- ・地域医療連携推進法人について、国の関係資料の公表や説明会の開催などの予定はどうなっているか。

(→事務局から、1月11日に自治体向けの説明会を開催すると厚生労働省から連絡があったこと、それを踏まえて情報提供できる部分はしていく旨を回答。)

## 7 閉会